

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
分担研究報告書

生活・療養環境による要望特性に応じたがん情報提供・相談支援体制の在り方：  
地域ニーズの検証と活性化人材の育成と普及に関する研究  
- がん医療情報提供・相談支援に関わる地域差と地域ニーズの検討 -

研究分担者 研究分担者 調 査 群馬大学大学院医学系研究科肝胆膵外科・教授

**研究要旨**

がん対策推進基本計画の重要施策の一つである「がんに関する相談支援と情報提供」は、がん相談支援センターの低い認知度、施設間や地域間格差などにより十分に機能していない。本研究では、地域の情報提供・相談支援体制を効率化するために不可欠な人材の育成を通じて、相談支援・情報提供体制の在り方を考え療養を含めた地域情報づくりモデル等を提案する。群馬県は少子高齢化がすすんだ過疎の地域を抱えており、全国の地方都市のモデル地区として有用と考えられ、地方においてはがん患者やその家族はがん治療に関する情報はもちろんのこと介護や療養に関する情報提供が重要になってくる。本年度は、がん医療情報提供・相談支援に関わる地域差と地域ニーズを抽出するため、群馬県において聞き取り調査を実施し、地域特性があることを明らかにするとともに、情報提供体制に関するアンケート調査による地域ニーズの抽出への協力と情報提供・相談支援のための人材育成に関する活動を行った。人材養成に関しては、群馬県からがん医療ネットワークナビゲーター制度におけるシニアナビゲーター計8名を輩出、養成制度新規参加者19名を得た。また、「ナビゲーターへのアンケート調査」に協力し、今後の展開における課題を明らかにした。

**A. 研究目的**

- 1) 生活圏で異なる多様なニーズに対応し、求められるものへと正確につなぐ「地域完結型情報提供・相談支援体制」の確立を目指す。その前提として必要とされる「がんの情報提供や相談支援に関する地域のニーズや問題点」を明らかにする。とくに群馬県は少子高齢化の進んだ過疎地域を抱えており、その地域事情にそくしたがん医療に関する情報の提供体制を構築する必要がある。
- 2) 地域の情報提供・相談支援体制とこれを補強する人材養成プログラムとを検証し、地域ニーズの抽出に基づく相談支援・情報提供体制の在り方、これを効率化する人材の育成と介入モデル、介護・療養を含めた地域情報提供モデル等を提案する。

**B. 研究方法**

- 1) がん医療情報提供・相談支援に関わる群馬県においてがん診療連携（拠点）病院を中心に、聞き取り調査等を実施し、地域ニーズを抽出、地域差、特性の有無とその内容を明らかにする。
- 2) がん診療連携拠点病院の相談支援センター/地域統括相談支援センター/医療・ケアネットワーク等を対象として

アンケート調査を行う。

- 3) がん医療ネットワークナビゲーター（以下、がんナビと略す）養成プロジェクト（H26-がん政策一般-007）でモデル事業の対象県である群馬県において、養成のためのシステム作りを模索し、さらに養成したがんナビの活躍の場を提供できる体制を構築する。

（倫理面への配慮）

本研究では介入試験は行わないが、モデル事業における評価は疫学研究の対象になると考えられ、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守してこれを行う。

**C. 研究結果**

- 1) がん医療情報提供・相談支援に関わる地域差と地域ニーズを抽出するため群馬県において聞き取り調査を実施し、地域特性があることを明らかにした。
- 2) 頻回の会議やメール審議の議論に参加し、アンケート調査を完成した。群馬県における病院・診療所・地域統括センター・訪問看護ステーション・居宅介護事業所・訪問看護事業所・訪問介護事業所・保険薬剤薬局・市町村の窓口・保健所・公共図書館・患者会などのリストアップを行った。群馬県 298 施設へアン

ケートを送付した。その結果、121 施設から回答を得た（回収率 40.6%）。その結果の詳細は、分担研究者である渡邊清孝医師により報告される。

- 3) 群馬県におけるがん情報提供・相談支援に関わるがんナビの育成とフォローを行った。群馬県において、がん医療ネットワークナビゲーター制度におけるシニアナビゲーター計 8 名を輩出、養成制度新規参加者 19 名を得た。また、資格を取得したがんナビのメンバーとメールで連絡しあえる体制をつくった。
- 4) がんナビの制度委員長としてがんナビの全国普及のために連絡を行った。日本癌治療学会におけるがんナビ養成のための多くの会議に出席し、意見を述べた。

#### D. 考察

研究の背景には、がん対策推進基本計画の重要施策の一つである「がんに関する相談支援と情報提供」は、がん相談支援センターの低い認知度、施設間や地域間格差などにより十分に機能していないとされる。現在のがん診療連携拠点病院における情報提供・相談支援に関わる人員配置の現実は年々高まるニーズに対応するには不十分であり、がん拠点病院からの周知活動にも限界がある。さらに群馬県における少子高齢化のすすんだ過疎地域ではがん患者の高齢化や独居など、特有の問題を抱えているものと考えられる。がん拠点病院からの物理的な距離のみならず、独居の高齢者や介護を要する高齢がん患者が適切な情報を得て、適切な福祉を享受することは容易ではない。しかしながら、そのような実態を明らかにする調査は行われていなかった。今回のアンケート調査は病院・診療所・地域統括センター・訪問看護ステーション・居宅介護事業所・訪問看護事業所・訪問介護事業所・保険薬剤薬局・市町村の窓口・保健所・公共図書館・患者会などがん診療に関わる可能性のある施設に幅広く行われたため、全く新たな情報のニーズが明らかになる可能性がある。

適切ながんに関する情報を入手することを円滑に行うためには、市井にあってがんの情報提供や相談支援への手助けができる人材の育成が急務であり、この点に本研究の最大の意義がある。そのための活動は、地域間の大きな実情の差を考慮しながらも、全国展開をしていかなければならない。

一方で、がんナビが養成された場合には、その活動をフォローしていくことは重要である。さらに、その活動の質を維持するためには、がん診療連携拠点病院のがん専門相談員との定期的な交流が必要不可欠である

と考える。それは、がんナビの相談相手の確保や実際のがん患者のがん相談支援センターへのアクセスの橋渡しにも必須の要件である。このためには、がん診療連携拠点病院側の理解を求めていくことが、がんナビ養成の全国展開には必要であることを意味しており、現在制度の拡充を図っているところである。

#### E. 結論

本研究の目的を達するためには、まず地域ニーズを抽出し、地域特性に応じた情報提供・相談支援体制の構築モデルを確立すること、また、これを円滑に機能させるための人材、がんナビを全国へ展開すること、そしてがん診療連携拠点病院との密接な連携が必要である。地道な作業であっても、がん対策推進基本計画の達成のためには、本研究のような活動は継続していく必要があると考える。

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

- 1) Araki K, Kubo N, Ishii N, Tsukagoshi M, Igarashi T, Watanabe A, Kuwano H, Shirabe K. Left Lobe Mobilization Strategy of Right-Sided Major Hepatectomy for Treatment of a Tumor Causing Severe Inferior Vena Cava Compression: A Novel Strategy Using the Modified Liver-Hanging Maneuver. *Ann Surg Oncol*. 2018 Feb 14. doi: 10.1245/s10434-018-6362-4. [Epub ahead of print]
- 2) Kawaguchi T, Shima T, Mizuno M, Mitsumoto Y, Umemura A, Kanbara Y, Tanaka S, Sumida Y, Yasui K, Takahashi M, Matsuo K, Itoh Y, Tokushige K, Hashimoto E, Kiyosawa K, Kawaguchi M, Itoh H, Uto H, Komorizono Y, Shirabe K, Takami S, Takamura T, Kawanaka M, Yamada R, Matsuda F, Okanoue T. Risk estimation model for nonalcoholic fatty liver disease in the Japanese using multiple genetic markers. *PLoS One*. 2018 Jan 31;13(1):e0185490. doi: 10.1371/journal.pone.0185490. eCollection 2018.
- 3) Takeishi K, Kawanaka H, Itoh S, Harimoto N, Ikegami T, Yoshizumi T, Shirabe K, Maehara Y. Impact of Splenic Volume and Splenectomy on Prognosis of Hepatocellular Carcinoma Within Milan Criteria After Curative Hepatectomy. *World J Surg*. 2018 Apr;42(4):1120-1128. doi:

- 10.1007/s00268-017-4232-z.
- 4) Shiba S, Abe T, Shibuya K, Katoh H, Koyama Y, Shimada H, Kakizaki S, Shirabe K, Kuwano H, Ohno T, Nakano T. Carbon ion radiotherapy for 80 years or older patients with hepatocellular carcinoma. *BMC Cancer*. 2017 Nov 7;17(1):721. doi: 10.1186/s12885-017-3724-4.
  - 5) Ishii N, Araki K, Yokobori T, Gantumur D, Yamanaka T, Altan B, Tsukagoshi M, Igarashi T, Watanabe A, Kubo N, Hosouchi Y, Kuwano H, Shirabe K. Reduced FBXW7 expression in pancreatic cancer correlates with poor prognosis and chemotherapeutic resistance via accumulation of MCL1. *Oncotarget*. 2017 Nov 6;8(68):112636-112646. doi: 10.18632/oncotarget.22634. eCollection 2017 Dec 22.
  - 6) Morita K, Nishie A, Asayama Y, Ishigami K, Ushijima Y, Takayama Y, Okamoto D, Fujita N, Ikegami T, Yoshizumi T, Shirabe K, Honda H. Does apparent diffusion coefficient predict the degree of liver regeneration of donor and recipient after living donor liver transplantation? *Eur J Radiol*. 2017 May;90:146-151. doi: 10.1016/j.ejrad.2017.02.041. Epub 2017 Mar 1.
  - 7) Uchi R, Takahashi Y, Niida A, Shimamura T, Hirata H, Sugimachi K, Sawada G, Iwaya T, Kurashige J, Shinden Y, Iguchi T, Eguchi H, Chiba K, Shiraishi Y, Nagae G, Yoshida K, Nagata Y, Haeno H, Yamamoto H, Ishii H, Doki Y, Iinuma H, Sasaki S, Nagayama S, Yamada K, Yachida S, Kato M, Shibata T, Oki E, Saeki H, Shirabe K, Oda Y, Maehara Y, Komune S, Mori M, Suzuki Y, Yamamoto K, Aburatani H, Ogawa S, Miyano S, Mimori K. Correction: Integrated Multiregional Analysis Proposing a New Model of Colorectal Cancer Evolution. *PLoS Genet*. 2017 May 19;13(5):e1006798. doi: 10.1371/journal.pgen.1006798. eCollection 2017 May.
  - 8) Bekki Y, Yoshizumi T, Shimoda S, Itoh S, Harimoto N, Ikegami T, Kuno A, Narimatsu H, Shirabe K, Maehara Y. Hepatic stellate cells secreting WFA+ -M2BP: Its role in biological interactions with Kupffer cells. *J Gastroenterol Hepatol*. 2017 Jul; 32(7):1387-1393. doi: 10.1111/jgh.13708.
  - 9) Sugiyama M, Yoshizumi T, Yoshida Y, Bekki Y, Matsumoto Y, Yoshiya S, Toshima T, Ikegami T, Itoh S, Harimoto N, Okano S, Soejima Y, Shirabe K, Maehara Y. p62 Promotes Amino Acid Sensitivity of mTOR Pathway and Hepatic Differentiation in Adult Liver Stem/Progenitor Cells. *J Cell Physiol*. 2017 Aug;232(8):2112-2124. doi: 10.1002/jcp.25653. Epub 2017 Mar 24.
  - 10) Matsuura K, Sawai H, Ikeo K, Ogawa S, Iio E, Isogawa M, Shimada N, Komori A, Toyoda H, Kumada T, Namisaki T, Yoshiji H, Sakamoto N, Nakagawa M, Asahina Y, Kurosaki M, Izumi N, Enomoto N, Kusakabe A, Kajiwara E, Itoh Y, Ide T, Tamori A, Matsubara M, Kawada N, Shirabe K, Tomita E, Honda M, Kaneko S, Nishina S, Suetsugu A, Hiasa Y, Watanabe H, Genda T, Sakaida I, Nishiguchi S, Takaguchi K, Tanaka E, Sugihara J, Shimada M, Kondo Y, Kawai Y, Kojima K, Nagasaki M, Tokunaga K, Tanaka Y; Japanese Genome-Wide Association Study Group for Viral Hepatitis. Genome-Wide Association Study Identifies TLL1 Variant Associated With Development of Hepatocellular Carcinoma After Eradication of Hepatitis C Virus Infection. *Gastroenterology*. 2017 May;152(6):1383-1394. doi: 10.1053/j.gastro.2017.01.041. Epub 2017 Feb 3.

## 2. 学会発表

当該研究に直接かわる発表なし

## G . 知的財産権の出願・登録状況

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし